絳の上言が推測を誤らざりしものなりとすれば、此の頃回鶻は公主降嫁の事を別にして、夙に南侵の計畫を抱きしものと見ざる可らず、然れども公主に尙せんが爲に、兩度迄特に使を遣し（此の後も頻々之を請ひしは次に述ぶるが如し）ながら、同時に侵略の計を策したりとするは、稍々事情の相合せざる感無きに非ず、寧ろ馬を市らざりしは和親を結ばんが爲にして、事の成らざるに及びて＝若しくは成らざるの形勢を觀取して、初めて軍を率ゐて南下するに至りしものと見るの當を得たるべきを思ふ、されど何れにせよ當時回鶻の勢は、尙唐を脅威するに充分なりしものにして、之と絶つは深く唐の恐れたる所なりしは、絳の上言によりても明かなりと曰ふべし、此の後も可汗は公主に尙せんとする希望を捨てず、卽ち舊唐書廻紇傳には前に引ける所に續きて

十二月（誤年之）二日（誤月之）宴歸國廻鶻摩尼八人、令至中書見宰臣、先是廻紇請和親、憲宗使有司計之、禮費約五百萬貫、方內誅討、未任其親、以摩尼爲廻鶻信奉、故使宰臣言其不可、乃詔宗正少卿李孝誠、使于廻鶻、太常博士殷侑副、諭其來請之意

と記せり〔一三八〕、然るに回鶻の懇請と、吐蕃に對する政策上の必要とは、遂に憲宗をして其の志を抂げて、公主嫁降のことを諾せしむるに至りしが如く、舊唐書廻紇傳には

廻紇自咸安公主歿役、屢歸欵、請繼前好、久未許之、至元和末、其請彌切、憲宗以北虜有勳勞於王室、又西戎比歲爲邊患、遂許以妻之、旣許而憲宗崩、穆宗卽位、踰年乃封第十妹、爲太和公主、將出降、廻紇登〔里〕邏骨沒密施合毘伽可汗遣使伊難珠・句錄都督思結、幷外宰相駙馬梅錄司馬兼公主一人葉護公主一人及達干、幷駝馬千餘來迎、太和公主發赴廻紇國